

中札内村農業の発展方策に係るパブリックコメント結果(3件)

番号	ページ	提出された意見	村の考え方及び結果	理由
1	P7	3. 担い手の育成・確保 「中学校における農業についての学習時間を設けるため、農業体験や地元農家における講演会の実施」という文言を追加。	中学校における農業という限定的な文言はしないものとし、文言の修正も行わないものとします。	P7「3. 担い手の育成・確保」の本文7行目には「地域の農地や優れた技術を次世代の担い手に継承していくため、親子間継承のほか第三者による経営継承の取組みを推進します。」と記載し、幅広い世代に該当します。 また、中学校では、これまでも学校内にある畑で野菜を育てており、農業に触れる機会があることや、村内保育園や小学校等においても農業に触れる機会がありますので、中学校に限定することはしないものとします。 なお、ご意見のありました中学校での農業体験や講演会による学びも大切だと思いますので、教育委員会や関係機関には周知します。
2	P9	6. 付加価値の高い農畜産物づくり(本文6行目) 「トレーサビリティを実施するなど」を「トレーサビリティを実施し」に変更。	ご意見のとおり変更します。	ご意見のとおり「実施するなど」という文言では、逃げ場があるように聞こえることから、「実施し」に断言させていただきます。
3	P9	6. 付加価値の高い農畜産物づくり 【主要施策】4行目 「④都市部の方に対して農業とふれあう機会の創出」にある都市部の方に対してを削除して「農業とふれあう機会の創出」の変更。	④は都市部の方に限定した文言としていますので、修正は行わないものとします。	P9「6. 付加価値の高い農畜産物づくり」の【主要施策】3行目の「③食育・地産地消の推進」において、これまでも健康で豊かな食生活の実現に向けて、村民を対象とした「手づくりごはん楽校、農業青年部共催の食育体験事業、七色献立プロジェクト事業」等の開催により、親子が農業とふれあう機会を設けております。 また、「3. 担い手育成・確保」において、農業実習生の受け入れや研修機会の開催など、村民向けに農業とのふれあいや、学ぶ機会を設けております。 以上のことから、④については都市部に限定した文言としておりますのでご理解くださいますようお願いいたします。